

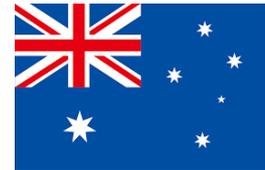
## 埼玉県観光大使 留学レポート

2022 年度はばたけ！女性応援奨学金短期コース Y.H.

留学先：オーストラリア

期間：三か月間

私はオーストラリアにある南オーストラリア州で 3 カ月間の高校留学をしました。南オーストラリア州は文化や自然に富んだ地域で、中心街へ行っても伝統的な建築物があったり、ドライブをしているとカンガルーや牛、羊などが見られたりしました。また、どのビーチに行っても海がとてもきれいな街でした。ここではオーストラリアでの生活および埼玉県の PR 活動について紹介します。



### 1. オーストラリアでの生活

#### A) 食事

私はホームステイという形でオーストラリアに滞在していました。ご存知のようにオーストラリアは移民の国です。そのこともあり、私のホストファミリーはイラン出身でした。イラン出身の家族だったので、普段からイランの食事を食べる事が多くありました。写真1はホストファミリーの親戚などが集まってパーティーを開いたときの食事です。この写真にも写っているように、実はイランの主食はお米です。日本も主食がお米であるので、親近感が得られました。その一方、イランのお米を炊くときにはスライスしたジャガイモやオイルなどを入れたり、サフランライスがあったりするので、日本とはまた違うカルチャーも感じることもできました。ほかにもバラやサフランを使ったスイーツや、お米とお肉、デーツで作られたミートボール、羊や鶏の串焼きなどがあり、刺激的な毎日でした。オーストラリアで過ごしながらも、ほかの国の文化を体験することができたのは貴重な経験になったと感じています。



写真1：イラン料理

#### B) 学校活動

私の通っていた学校は Australian Science and Mathematics School というところ です。南オーストラリア州でも珍しい理数学校で、数学や科学に特化した学習をしていきました。神経や有機化学に関する動画をグループで作成したり、一つのスポーツを題材に筋肉やその負担を調べるレポートを書いたり、資料を基に誰が初めにワクチンを受けるべきかディスカッションしたりする課題などがありました。やはり英語で取り

組む必要があるので大変なところはありましたが、友達が助けてくれたので、楽しく活動することができました。

また、この学校では生徒主体の活動が多く行われていました。例えば、オーストラリアの文化的多様性を尊重する日である Harmony day には、生徒主催のイベントが開催されていました。学校生徒の多様性に対する理解をさらに深めることを目的とされていて、そのイベントの参加費を団体に寄付をしていました。写真 2 はそのイベントの様子です。ヒンドゥー教のホーリー祭にちなみ、色粉を塗り合って祝いました。Harmony day のイメージカラーであるオレンジと、Harmony day が国際女性デーの日付と近かったことにもちなんで、そのイメージカラーである紫の色粉が使われました。楽しみながら、多様性について尊重する大切さを再認識することができました。



写真 2：イベントの様子

### C) 日常生活



写真 3：女性国際デーの取り組み

ほかにも LGBTQIA の生徒や先生も多かった  
ので、週に 1 回 LGBTQIA らの生徒が積極的に  
集まっていました。そういった機会のおかげで、  
いわゆるマイノリティーと言われている人たち  
でも過ごしやすい空間がつけられていました。  
実際、その友達は「この学校では性に対しての偏  
見や差別はない」と話していました。また、  
LGBTQIA を象徴する虹色の靴下やサスペンダーを身に着けていたり、性別にかかわらず自分が好きな格好をしたりしていました。写真 3 から、性や平等に対する意識があることがわかれると思います。自分たちが主体となって、周りの目を気にせずに発信できるということは、オーストラリアの open-minded な精神に通じているところがあると思います。

その国民性のおかげか、オーストラリアでの生活を振り返るととても快適に楽しく過ごすことができたと思います。困ったことがあっても、周りの人が親切に助けてくれました。英語が分からず戸惑っているときも、どのバスに乗ればいいのか混乱したときも、購買のシステムが分からなかったときも、挙げればきりがありませんが、どんなときでも親切に対応してくれました。以上は私から声をかけたときの話ですが、話しかけられることもありました。例えば、私が海に行ったときに、他の海水浴客の人に話しかけ

られ、ちょっとした雑談をしました。どんなお仕事をしているか、留学でここにきていること、日本はどんな感じの生活なのかなど、お話ししました。ほかにもスーパーマーケットに行ったときにも、他のお客さんに話しかけられて、「この商品は〇〇なのよ～」と、商品について話すことができました。Open-mindedの国民性だからこそ、一期一会を強く実感することができました。

## 2. 埼玉県のPR

### A) 食事

私は埼玉県の料理やアニメを中心にPRしました。ホストファミリーには、埼玉県の郷土料理である味噌ポテトをふるまったり、埼玉県は加須うどんや熊谷うどんがあるようにうどんが有名なので、うどんの作り方を教えたりしました。味噌ポテトをふるまったときには、肉じゃがやお味噌汁も作ったのですが、味噌ポテトはフライドポテトと似ているところがあったためか、他の日本食よりも人気がありました。味噌ポテトとうどんのどちらも作り方は簡単な上、ホストファミリーも「健康的でおいしいね!」と喜んでくれたので、今後も作ってくれたらいいなと思います。



写真4：和食と郷土料理

### B) アニメ

友達には埼玉県のアニメや映画をアピールしました。友達と話していると「どんなアニメを見る?」と聞かれることが多かったので、クレヨンしんちゃんを紹介しました。どういう物語かを説明すると「面白そうだね」や「見たことある!」と答えてくれることが多かったです。また、有名なジブリ映画の一つであるトトロについても話しました。トトロを知っている友達は多くて、その舞台は埼玉県であることを伝えると「トトロに会えるかもじゃん!行ってみたい」と話してくれました。

### C) プレゼン

他には、学校の全校集会で埼玉県についてのプレゼンテーションを行いました。友達と交流していく中で日本語を学んでいる生徒が多いと分かったので、そのプレゼンでは日本語学習の留学先として埼玉県を提案しました。埼玉県は交通アクセスがよいことや、秩父や長瀬があるので自然に富んでいること、川越で日本文化を体験ができることなどを伝えていきました。全校生徒の前での発表は緊張しましたが、その後友達にプレゼンについて聞いてみたところ「とても過ごしやすそうでいってみ



写真5：発表の様子

たい！」「自然がとてもきれいで素敵！」といった反応が得られたので、大きな成果になったと思います。

### 3. 振り返って

留学生生活を振り返ってみると、快適にオーストラリアを過ごすことができました。特に私が過ごしていた南オーストラリア州では自然と都会のバランスが良く、透き通ったきれいな海

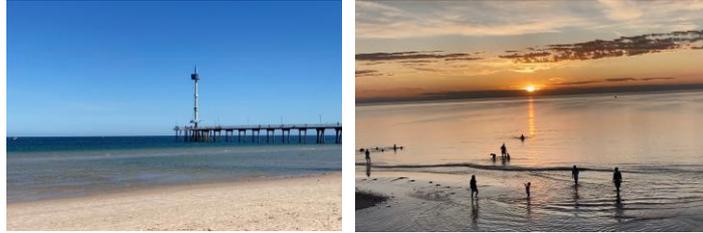


写真 6：海の写真

が見られつつ、不便なくショッピングモールで買い物もできました。また、留学前は友達ができるか、英語が通じるか不安だったけれど、どんな人もとても親切で困ったことがあったら助けてくれました。オーストラリアは旅行先としても、留学先としても、移住先としてもおすすめの場所です。ぜひ行ってみてください。